(IV－84)　「道の駅」の現状と今後のあり方についての一考察

足利工業大学工学部　学生員　藤森孝宏
足利工業大学工学部　正会員　為国孝敏

1．はじめに

近年、長距離ドライブ、女性や高齢者のドライバーが増加する中で、交通の快適な走行を支えるため、一般道路に安心して利用できる休憩施設が望まれている。そうした中で、第11次道路整備五箇年計画の発足にともない、「道の駅」登録・案内制度が施行され、現在では、全国に470箇所もの「道の駅」が誕生するまでに至った(平成11年現在)。これらの「道の駅」は、地域連携が促進される等の効果も期待されている。しかし、「道の駅」に対する利用者の認知度は低く、利用メリットは認識されていないと思われる。

そこで、本研究では「道の駅」の現状を明らかにするとともに、今後の「道の駅」の課題を発見することを目的とする。具体的には、関東地域の「道の駅」を対象に実施したアンケート調査結果から、「道の駅」の今後のあり方について検討を行った。

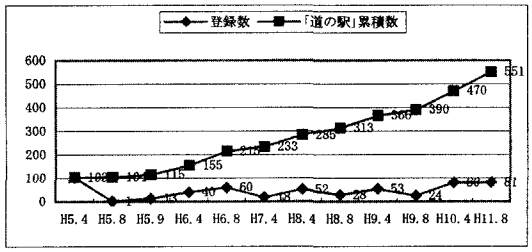
2．「道の駅」概説

「道の駅」とは、農水省や自治省が推進する地域振興支援事業としての地域振興施設のうち国道や、主要地方道などの交通量の多い道路に面した施設でトイレ・休憩施設等が整備された地域振興施設に対し、建設省が、道路交通の円滑と安全及び地域活性化振興施設の広報効果の見地から、ロードステーションとしての全国的な統一名称として、平成４年度(平成５年２月23日)から「道の駅」を登録認可する制度を設けた。

これらの「道の駅」は、「休憩機能」、「情報交流機能」、「地域連携機能」の３つを基本機能として、「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」を提供しようとする共通コンセプトで整備されている。

したがって、登録申請にあたっては一定の要件を必要とし、それを満たす施設を「道の駅」として登録証が交付され、道路標識・地図・図書などにより利用者に案内することとしている。

「道の駅」登録状況(図-1)は、平成５年の第１回登録を初めに、現在までに全国470箇所の「道の駅」が誕生している。今年度(平成11年８月27日)には第15回登録として、全国81箇所について地方公共団体から登録申請があり、道路局長通達に基づく登録要件に合致していることから、新たに追加された。



図―１　「道の駅登録状況の沿革

現在までに登録されている「道の駅」には、各地域の特色を活かした施設が設置されている場所もある。具体的には、温泉施設、キャンプ場施設、その土地にゆかりのある建築物等である。また地域の物産・産業を活かしての農産物の販売や体験工房を設置している「道の駅」などがある。

3．アンケート調査の概要

本研究では、関東地域全域の「道の駅」を調査対象とし、栃木県「もてぎ」、「湯の香しおばら」の二つの「道の駅」利用者を対象に、アンケート調査を実施した。本調査では、今後の「道の駅」事業を見据えるために、利用者の「道の駅」に対する現状を把握することを目的とし、目的・活用別選択要因等の分析に必要な情報データの収集を行った。また、本アンケート調査は、平成11年11月6日(土)、7日(日)に実施した。調査手法として、本調査員が現地にて調査票を直接配布する配票調査とした。

本調査の項目を以下に列挙する。

① 個人属性　　:「性別、年齢、住所（起点場所）」
② 「道の駅」に関して:「旅行目的、利用回数、利用目的、利用活用した情報、提供して欲しい情報、提供情報満足度、意見、要望」

4．調査結果の分析

アンケート調査を行った結果、調査対象者（アンケート回答者）は428人で、そのうちの有効回答数は、379人(88.6%）のデータを収集した。(表-1)

表―１　アンケート配布票数および有効回答

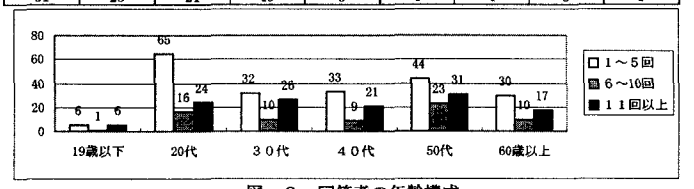
調査場所	調査日時	配布票数	有効回答	有効回答率
「道の駅」もてぎ	H11.11.13(土) 9:00～16:00	202 人	182 人	90.1%
「道の駅」湯の香しおばら	H11.11.13(土) 9:00～16:00	226 人	197 人	87.2%
合　計		428 人	379 人	88.6%

初めに、アンケート収集結果から「道の駅」利用者像を描いた。利用者の年齢構成(図-2)は、思ったより20代の「道の駅」利用者も多く、若年齢層にも支持されていることが見受けられる。しかしながら、若年齢層の過去の「道の駅」利用経験が少ない。また、高年齢層においては50代を頂点とし、「道の駅」利用経験が多い。

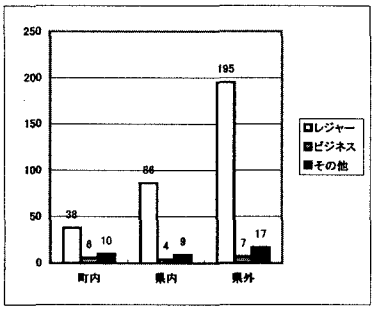
Keywords:関東地域、道の駅、実態調査　〒326-8558　栃木県足利市大前町268-1　TEL0284-62-0605　FAX0284-61-1061

表－２　県外の「道の駅」利用者の都道府県別

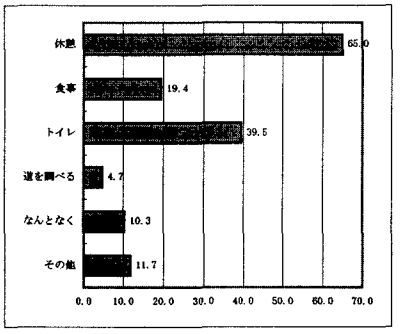
道の駅「もてぎ」における県外の都道府県別								
茨　城	埼　玉	千　葉	東　京	神奈川	福　島	静　岡	群　馬	宮　城
70	12	10	4	3	3	2	1	1
道の駅「湯の香しおばら」における県外の都道府県別								
茨　城	東　京	埼　玉	千　葉	長　野	福　島	山　形	神奈川	新　潟
31	25	21	19	5	4	4	3	1



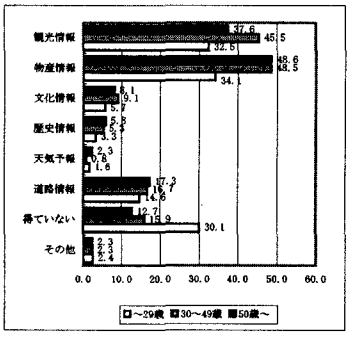
図―２　回答者の年齢構成



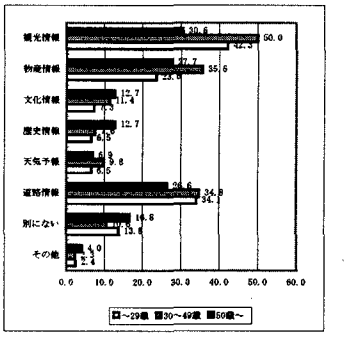
図－３　利用者の在住場所別の旅行目的



図―４　「道の駅」利用目的



図－５　年齢別の利用・活用情報



図－６　「道の駅」で提供してほしい情報

旅行目的(図-3)をレジャー目的(83.3%)とする利用者が、圧倒的に高い回答率を示している。それに加え、県外からの利用者も多く、「もてぎ」においては、県外106人中、茨城県を在住場所(起点)とする利用者は70人(66.0%)と北関東の交流の拠点として多くの人達に利用されているという「道の駅」の形態がはっきりとわかる。また、「湯の香しおばら」は、県外在住の回答者113人中、東京(25人)、埼玉(21人)、千葉(19人) の関東地域を在住場所(起点)とする回答者が65人(57.5%)と多い。これは、東北自動車道西那須野塩原インター近くに「道の駅」が在るため、県外からの交通の便がよく、観光地玄関口である「道の駅」としての形態がわかる。

利用者の「道の駅」利用目的(図-4)は、「休憩」、「トイレ」、「食事」の順に多く利用されている。

年齢別の利用・活用情報(図-5)では、「物産情報」、「歴史情報」、「道路情報」が高年齢層を中心に多く利用していることがいえる。また、年代比較において、「得ていない」という項目が、若年齢層が高年齢層よりも高い回答率となっている。

年齢別の「道の駅」で利用者が期待する提供情報(図-6)を分析すると、高年齢層の期待する情報は、「文化情報」と「歴史情報」であり、この２つは年齢層が高くなるにつれて、期待も高くなっている。一方、「観光情報」と「道路情報」、この２つの情報はどの年齢層でも高くなっている。

アンケート回答者からの「道の駅」に対する意見・要望として、ガソリンスタンドの設置、施設等(レストラン、売店)の24時間営業、もっと「道の駅」の数を増やして欲しいなどが挙げられた。また、各地域の特色が出ていて、公共トイレが比較的、清潔である等の好印象点も挙げられた。

以上のアンケート結果の分析から、「道の駅」の存在は、若年齢層から高年齢層まで、支持されていることがわかる。しかしながら、若年齢層においては、「道の駅」の情報や諸施設を利用活用されていない結果から、若年層を引き付ける魅力が乏しい現実がうかがえる。

また、今後の「道の駅」事業の方向として、利用促進を図るためには、新規の訪問・利用者を増やしていくこともさることながら、現在の「道の駅」利用者を如何に、「道の駅」の存在および利用メリットを認知させるということも、今後の「道の駅」活性化の重要なポイントと考えられる。

５．まとめ

現在「道の駅」を利用するにあたって、「道路情報」は、利用者に必要視されている。しかし、「道を調べる」という項目は、利用目的とされていないのが現実である。一本のラインとして繋がり方面案内が充実している高速道路よりも、多方面へのライン上の点である「道の駅」の役割として、「道路情報」を一つの情報交流機能として役に立たせる方向を認知させ、利用促進を図ることが必要と提案する。

謝辞：本研究を進めるにあたり、足利工業大学交通計画研究室の小松礼知氏、貫沢慶子氏、高久尚之氏に多大なる協力を頂きました、ここに、感謝の意を表します。